

平成31年度 学校自己評価システムシート（県立鴻巣女子高等学校）

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 外部機関と連携しきめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な自己実現を支援する。 3 多彩な学校行事や規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切に作る指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 3 日 現 在)		実 施 日 令 和 2 年 2 月 3 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	学習環境づくりの指針、「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」が徹底して、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、家庭学習時間が増加傾向にあり、自ら学ぼうとする姿勢が向上している。 今年度は、各生徒に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力が向上するように、学習指導の改善を図る。	生徒一人ひとりに学科・教科ごとの具体的目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させる。	①学科毎に年間学習計画を説明する。(4月:学年) 授業毎の年間学習計画を説明し各自の目標を明確にする。(4月:授業担当) 学期毎に振り返りを行い各自でまとめさせる。(学期当初・末:授業担当) ②授業外の学習(課題・予習・復習)を具体的に指示して提出させる。(通年:授業担当) ③授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(1学期末:授業担当) ④各種研修会や授業公開週間等で教員間の学び合いを充実する。(年間5回以上)	①③学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(85%) ②家庭学習時間の状況(昨年度比) ④研修会等の実施状況と成果	生徒学力向上と職員の対応力向上に積極的に取り組むことができた。 ①授業単元、学期計画を明確に説明。授業振り返りや学習成果のまとめ時間を確保 ②授業毎の指示を徹底して家庭学習の定着が進む。宿題・課題の提出状況自己評価(91%)家庭学習時間は昨年度並み。 ③学校生活アンケートを2回実施(7月・1月)PDCAサイクルの活性化。昨年度比較で学力向上を実感する生徒(70%)(1学年77%) ④学び診断・生徒疾病等研修会(6回)で生徒理解や生徒対応力を向上。	A	本校の学びの基礎指針が生徒に定着して、生徒の学習意欲や学習姿勢は年々向上している。個別支援を必要とする多様な生徒対応への理解と対応、ICT活用による学力向上等、学びの質を高める方策を充実していく。 授業の進度や内容に肯定的回答している生徒(88%)比率を高めるべく外部機関調査や各種の職員研修会を一層充実させる。	評価項目の達成状況のうち、生徒のアンケート結果が良好であり、学校の目標や具体的方策がよく浸透していると感じる。 様々な場面で生徒に寄り添い、義務教育のように、丁寧にきめ細やかな指導をしている姿が随所に見られる。素直な生徒が増えており、前向きに受け止めている結果が、良い形でいろいろな面に表れている。 生徒理解を深める職員研修会の実施は評価できる。生徒状況に合わせて個別対応力を高めるように充実して欲しい。
2	自立した女性の育成を目指し、外部機関と連携しながら、本校の生徒現状に沿った体系的な進路指導を行い一定の成果を得ている。 今年度はこの取り組みを充実するとともに、一人ひとりの進路希望に寄り添い、家庭との情報交換等、連携を図りながら、キャリア教育や進路指導、進路決定をしていく。	生徒一人ひとりが自己理解を進めるとともに、将来に向かって積極的に考えるように、進路指導やキャリア教育を向上する。	①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒実態を把握する。(5月:進路部・学年) ②進路の手引きを定期的を使用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行う。(通年:学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施して個々の進路希望状況と相談を行う。(各学期:担任) ④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(年3回以上:進路部)	①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(80%) ③進路未決定者の割合(昨年度比) ④保護者の進路行事参加状況と成果	生徒個人の希望を実現する学年に応じた指導を進めることができた。 ①業者テスト結果を面接等で積極的に活用、本校学力状況の研修会を実施。 ②月毎の学習成果まとめを行い、ポートフォリオを進めた。 ③例年の面談に加えクラスを中心に短時間面談を増加。就職未決定者は前年度比減少、進路行事に積極的参加(81%)。 ④保護者向け進路個別相談会・労働講座・就職個別相談、外部講師を含め実施。	A	進路決定には家庭との連携が不可欠である。生徒個々の状況の把握しながら、様々なキャリア教育を進めていく。 生徒ひとりひとりの希望に寄り添うとともに、新たな進路の可能性についてアドバイスをしていく。また、情報提供のほか、保護者の進路行事参加機会を増加していく必要がある。	職業を選択するのは大変だ。本校は3学科の生徒が切磋琢磨し合い、素晴らしい発表やプレゼンに見られるように、良い結果につながっている。生徒は校内に居ながら、互いに、様々な人生観や職業感のヒントを得られている。特に人前で発表する機会が多いのは励みになる。ここ数年、普通科の生徒の中にも保育に進んで欲しい生徒が増えている。良いことだ。
3	保護者アンケートによると、学校生活のなかで、「社会人としてのマナーを身につけて欲しい」「良好な人間関係を築くことができるコミュニケーションスキルを高めて欲しい」という要望が高い。また、個別の支援や配慮を必要とする生徒への組織的な対応が望まれている。 今年度は、基本的な生活習慣を確立し、学校生活を中心に自己管理能力を育成するための、具体的な取り組みを行う。また、様々な個別の支援に組織的に対応する、校内体制を充実していく。	生徒の自己管理能力の育成、各種の個別支援体制を改善する。	①生徒手帳の使用方法を説明して自己のスケジュール管理を徹底させる。(4月:クラス担任) 学校生活を中心に自己管理ができているか、生徒手帳の記入を確認する。(通年:クラス担任) ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(年3回以上:生徒指導部、在り方生き方に関する教育推進委員会) ③荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。(通年:学年) ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制整備4月)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理の意識を高めた生徒の割合(80%) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(80%)	基本的な生活習慣の確立や自己管理能力を向上する、粘り強い指導を実践できた。 ①手帳を活用したスケジュール管理法を全クラスで実施。 ②マナー向上・人間関係・セルフコントロール・SNS関連の講演会、学習会を実施、感想、成果良好。 ③全職員で毎日登校指導と声かけを行い、生徒状況の把握。 「CLEAN THE TABLE・ロッカー」肯定的回答(1学期末93%)(学年末93%) 「あいさつ」肯定的回答(1学期末92%)(学年末90%) ④県、教育事務所派遣の他に、本校独自のカウンセラーを新規に依頼し、相談や支援体制を一層充実させた。	A	基本的な生活習慣の確立を図るうえで、自身の将来像を考えることが重要である。卒業後、1年後、3か月後等、様々なスパンで学校生活を意識させる取り組みを行っていく。 生徒個々の状況に応じた、相談や支援体制が充実してきている。今後は生徒理解を進めるとともに、状況に合わせた、個別の対応計画と支援実施を多くの職員で行っていく仕組みを構築していく。	自分が高校時代からずっと見ているが、生徒や学校が年々良くなってきている。生徒の満足度も上がってきている。高校での学習が人生の糧となり、学校生活での取組や思い出が一生の財産になると思う。今後も生徒に寄り添う指導を継続して欲しい。また、本校で高まってきている自己管理能力は様々な組織で参考になると感じた。 生徒の抱える悩みが家庭等にあることも多い。その意味で本校のカウンセリング機能が充実してきていることは良い。実習等の体験学習や校外実習を活用して、達成感や自己肯定感を一層高めて欲しい。
4	地域との連携や交流事業を年々変化・充実して開かれた学校づくりを推進している。また、文化祭・体育祭等の学校行事は来場者が増加している。 今年度も学校外と積極的に関わり、地域コミュニティー充実の一翼を担っていく。生徒の活躍の場を拡げ、自己肯定感、有用感を持たせることで、WIN・WINの関係づくりに取り組んでいく。	生徒の活躍の場を拡げ、自己肯定感や自己有用感を向上する。	①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:特別活動部、教科担当) ②各種の体験活動、県の事業活動の内容改善を図る。(通年:教科担当) ③新規のイベント、ボランティア要請に対応、適切に参加できるように支援する(通年:担当)	①③地域交流等の実施状況と成果 ①学校行事に積極的に参加する生徒の割合(90%) ②③体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果と前年度比較	生徒活躍機会の増加と円滑な参加を推進。 ①学校行事参加肯定的回答(94%)文化祭一般来場者数年々増加(一昨年度比1.3倍)学校説明会の生徒参加機会増加、来校者との座談会を新規実施、好評。 ②市報での広報、参加者募集地域の拡大等、県イノベーション事業を活性化。 ③市制周年記念行事等に新規参加、生徒活躍の場を増加。保育実習・体験活動・ボランティア、全学年で300名強、円滑参加をサポート。	B	校内行事はもちろんのこと、外部との連携も有効活用し、生徒の活躍の機会を増やし、自己に対する肯定感・有用感を一層高めていく。 地域等の催し物・イベント参加依頼が増加しているが、実施時期や参加時間等、調整事項が多分にある。一方、生徒の社会貢献意識は高い。今後は学業優先を第一としながら、外部との連携を深めていく。	年々生徒は目標を持って学校行事に取り組んでいる。練習を重ね丁寧に準備し、自己有用感やクラスの団結力を高めている。また、変化してきている社会環境にも学校全体が対応できているのは良い。 校外での催しやボランティア参加は自己の存在意義や価値を確認できる絶好の場である。地域は協力する気持ちが強いため、今後も連携を進めていきたい。